

令和4年度 全国学力・学習状況調査

— 鈴鹿市の結果概要 —



令和4年10月

鈴鹿市教育委員会事務局教育指導課

目次

1	調査の目的	・・・・・・・・・・P	1
2	調査対象・実施校数・実施児童生徒数（本市）	・・・・・・・・・・P	1
3	調査日時・内容	・・・・・・・・・・P	1
4	調査結果の概要		
	（1） 本年度の平均正答率	・・・・・・・・・・P	2
	（2） 経年変化	・・・・・・・・・・P	3
5	【教科に関する調査】の結果		
	（1） 小学校 国語	・・・・・・・・・・P	5
	（2） 小学校 算数	・・・・・・・・・・P	6
	（3） 小学校 理科	・・・・・・・・・・P	7
	（4） 中学校 国語	・・・・・・・・・・P	8
	（5） 中学校 数学	・・・・・・・・・・P	9
	（6） 中学校 理科	・・・・・・・・・・P	10
6	各教科に関する【児童生徒質問紙調査】【学校質問紙調査】の結果		
	（1） 小学校国語に関する質問紙調査の結果	・・・・・・・・・・P	11
	（2） 小学校算数に関する質問紙調査の結果	・・・・・・・・・・P	13
	（3） 小学校理科に関する質問紙調査の結果	・・・・・・・・・・P	15
	（4） 中学校国語に関する質問紙調査の結果	・・・・・・・・・・P	17
	（5） 中学校数学に関する質問紙調査の結果	・・・・・・・・・・P	19
	（6） 中学校理科に関する質問紙調査の結果	・・・・・・・・・・P	21
7	鈴鹿市の重点取組等に関する【児童生徒質問紙調査】の結果		
	（1） 自己肯定感，挑戦心，達成感等に関する状況	・・・・・・・・・・P	23
	（2） 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	・・・・・・・・・・P	30
	（3） 家庭学習，読書，スクリーンタイムに関する取組状況	・・・・・・・・・・P	33
	（4） ICTを活用した学習状況	・・・・・・・・・・P	40
8	まとめ	・・・・・・・・・・P	46

1 調査の目的

- 1 全国・学力学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的として実施される。
- 2 市内すべての学校が、各児童生徒の学力や学習状況をより客観的に把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査対象・実施校数・実施児童生徒数（本市）

調査対象	調査（教科） 実施校数	実施児童生徒数		
		国語	算数・数学	理科
小学校6年生	30校	1,630人	1,636人	1,643人
中学校3年生	10校	1,502人	1,507人	1,511人

3 調査日時・内容

<調査日時> 令和4年4月19日（火）

<調査内容>

- ・ 教科に関する調査（国語，算数・数学，理科）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則として、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりになっている。

	国語	算数	理科
小学校	◎言葉の特徴や使い方に関する事項 5問	◎数と計算 6問	◎「エネルギー」を柱とする領域 4問
	◎我が国の文化に関する事項 1問	◎図形 4問	◎「粒子」を柱とする領域 5問
	◎話すこと・聞くこと 2問	◎変化と関係 4問	◎「生命」を柱とする領域 5問
	◎書くこと 2問	◎データの活用 3問	◎「地球」を柱とする領域 5問
	◎読むこと 4問		
中学校	◎言葉の特徴や使い方に関する事項 6問	◎数と式 5問	◎「エネルギー」を柱とする領域 6問
	◎情報の扱い方に関する事項 1問	◎図形 3問	◎「粒子」を柱とする領域 5問
	◎我が国の文化に関する事項 3問	◎関数 3問	◎「生命」を柱とする領域 5問
	◎話すこと・聞くこと 3問	◎データの活用 3問	◎「地球」を柱とする領域 6問
	◎書くこと 1問		
	◎読むこと 2問		

・ 質問紙調査

児童生徒に対する質問紙調査	学校に対する質問紙調査
学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

4 調査結果の概要

(1) 本年度の平均正答率

- 小学校，中学校ともに実施された全ての教科において，全国平均を下回った。

表1 令和4年度 平均正答率（小6） (%)

小6	国語	算数	理科
鈴鹿市	63	62	63
三重県（公立）	65	62	63
全国（公立）	65.6	63.2	63.3

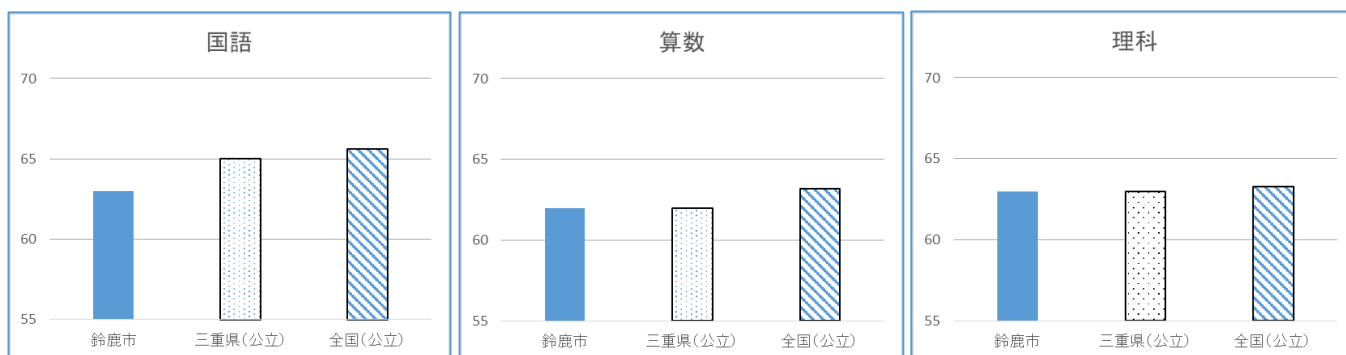
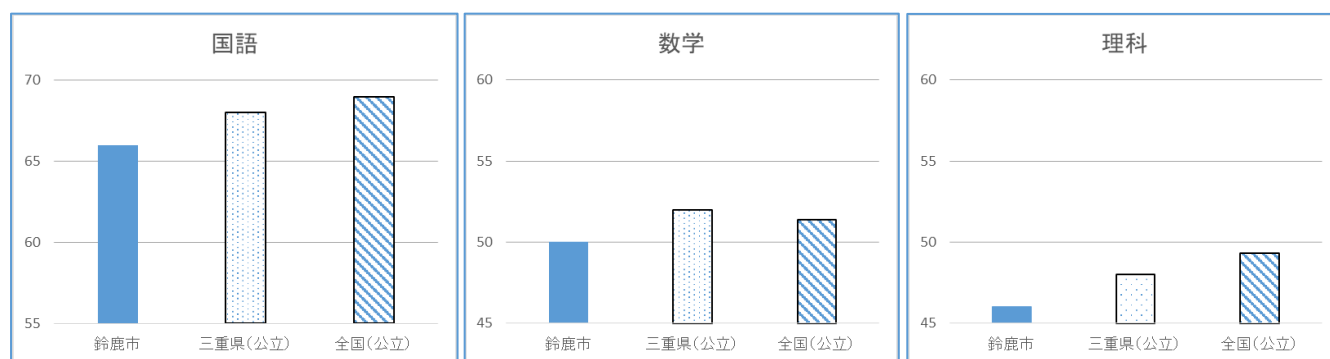


表2 令和4年度 平均正答率（中3） (%)

中3	国語	数学	理科
鈴鹿市	66	50	46
三重県（公立）	68	52	48
全国（公立）	69.0	51.4	49.3



(2) 経年変化

- 小学校理科では、H30年度より改善し、全国平均値との差が縮まっている。
- 中学校国語では、依然全国平均値を下回っているものの、H30年度から改善傾向にある。
- 小学校算数、中学校数学では、R3年度まで年々全国平均値との差が縮まってきたが、R4年度は差が広がった。
- 小学校国語は、実施された教科の中で最も全国平均値との差が開いた教科であり、2.5ポイント以上の差が開いたのはH25年度以来である。

※ 各都道府県や各市町村の結果については、H29年度から整数値で公表されている。

※ H31年度からA問題（知識）とB問題（活用）が一体化されたため、経年変化については、B問題と比較検証している。

※ R2年度は、新型コロナウイルス感染症にかかる学校教育への影響等を考慮し実施されなかった。

表3 過去5か年の鈴鹿市と全国の平均正答率（小6）（%）

小学校		平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和3年度		令和4年度	
		本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国
国語	A	73	74.8	70	70.7	64	63.8	64	64.7	63	65.6
	B	57	57.5	53	54.7						
算数	A	77	78.6	63	63.5	66	66.6	70	70.2	62	63.2
	B	44	45.9	50	51.5						
理科		—	—	58	60.3	—	—	—	—	63	63.3

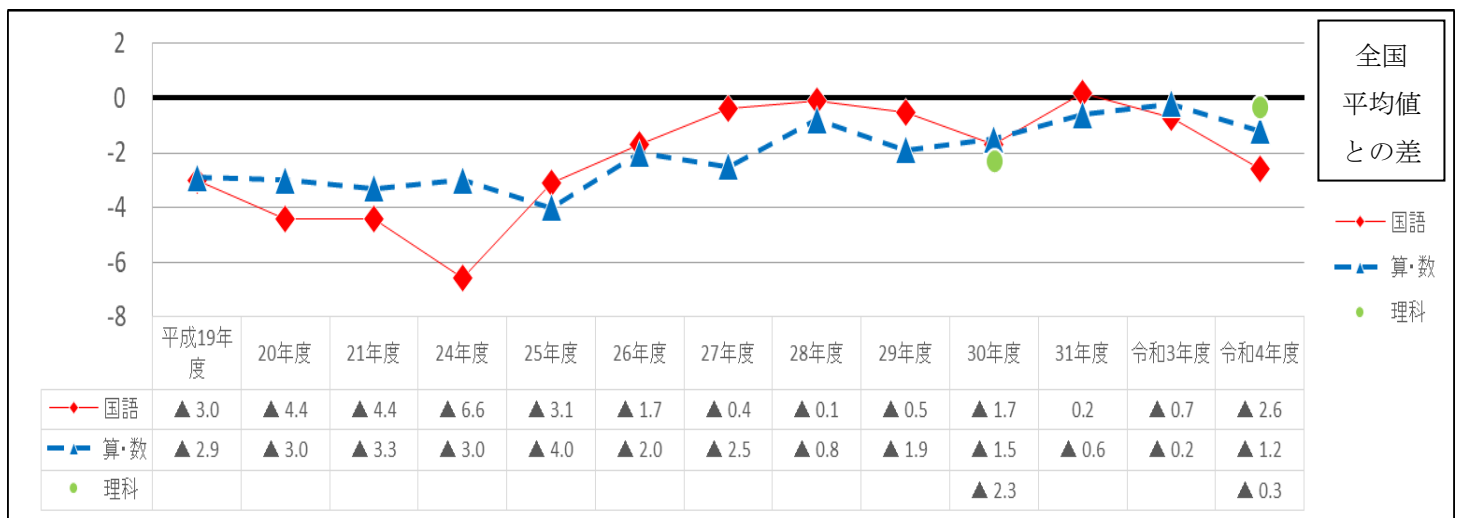


図1 国語、算数における鈴鹿市と全国平均値との差の経年変化（小6）

表4 過去5か年の鈴鹿市と全国の平均正答率（中3）（％）

中学校		平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和3年度		令和4年度	
		本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国	本市	全国
国語	A	76	77.4	74	76.1	69	72.8	61	64.6	66	69.0
	B	71	72.2	57	61.2						
数学	A	62	64.6	65	66.1	57	59.8	56	57.2	50	51.4
	B	45	48.1	43	46.9						
理科		—	—	65	66.1	—	—	—	—	46	49.3
英語		—	—	—	—	53	56.0	—	—	—	—

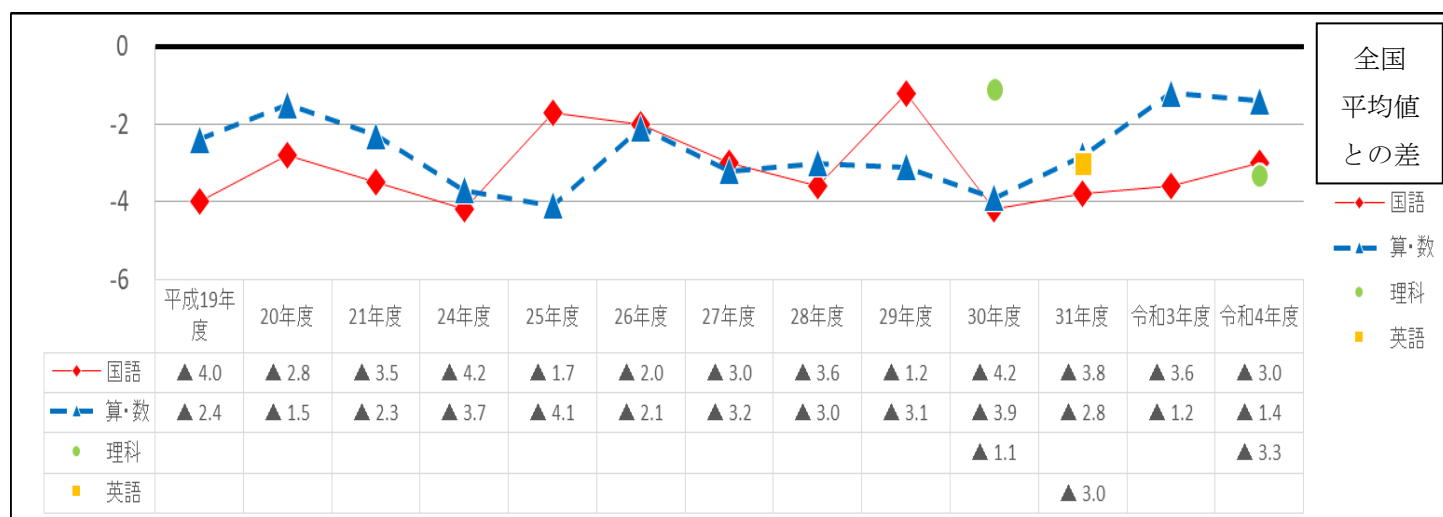


図2 国語、数学における鈴鹿市と全国平均値との差の経年変化（中3）

5 【教科に関する調査】の結果

(1) 小学校 国語

※全国平均との比較について

- 「我が国の言語文化に関する事項」は、全国平均値を上回った。
- R3年度の調査と比較すると多くの領域で差が広がっており、特に「読むこと」に関する領域は、差が大きく開いている
- 記述式の問題の平均正答率が、H3 1年度より下降傾向にある。

表5 小学校国語における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）（％）

小学校国語		平成31年度			令和3年度			令和4年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
	全体	64.0	63.8	0.2	64.0	64.7	-0.7	63.0	65.6	-2.6
学習指導要領の領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	52.5	53.5	-1.0	68.5	68.3	0.2	68.0	69.0	-1.0
	情報の扱い方に関する事項	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	我が国の言語文化に関する事項	-	-	-	-	-	-	80.7	77.9	1.1
	話すこと・聞くこと	72.2	72.3	-0.1	77.5	77.8	-0.3	62.8	66.2	-3.4
	書くこと	55.0	54.5	0.5	61.3	60.7	0.6	45.4	48.5	-3.1
	読むこと	82.2	81.7	0.5	44.0	47.2	-3.2	62.1	66.6	-4.5
問題形式	選択式	75.1	75.1	0.0	72.2	71.7	0.5	70.2	71.8	-1.6
	短答式	47.6	48.7	-1.1	68.9	70.6	-1.7	62.1	63.6	-1.5
	記述式	58.1	57.6	0.5	37.9	40.2	-2.3	45.9	51.3	-5.4

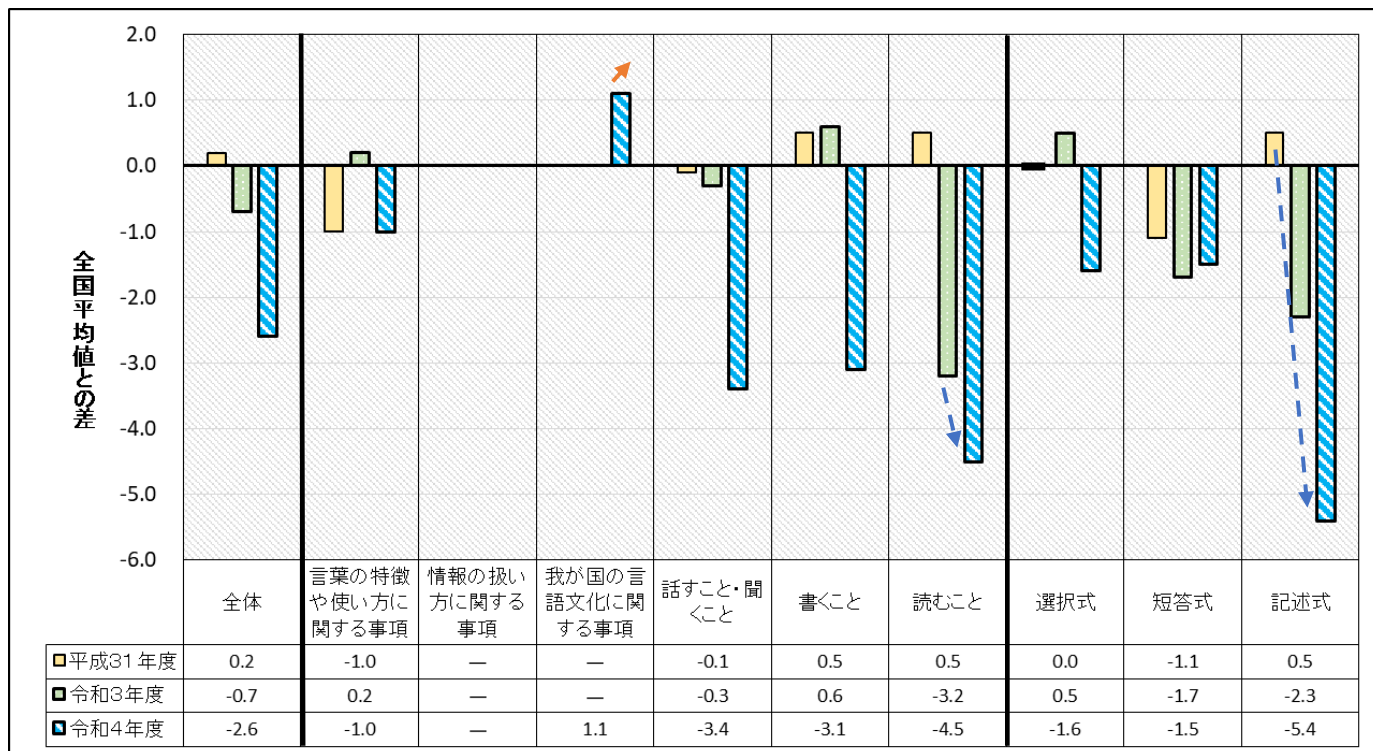


図3 小学校 国語（H3 1～R4 経年変化）

(2) 小学校 算数

※全国平均との比較について

- 「変化と関係」の領域において、全国平均値を上回った。
- 記述式の問題について、全国平均値を下回るものの、H3 1年度より改善傾向にある。
- 「数と計算」の領域において、H3 1年度より下降傾向にある。
- 「図形」の領域について、全国平均値を下回る結果が続いている。
- 「データの活用」の領域において、R3年度より大きく下回った。

表6 小学校算数における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）（％）

小学校算数		平成31年度			令和3年度			令和4年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
	全体	66.0	66.6	-0.6	70.0	70.2	-0.2	62.0	63.2	-1.2
学習 指導要領 の領域等	数と計算	64.1	63.2	0.9	63.1	63.1	0.0	68.2	69.8	-1.6
	図形	76.2	76.7	-0.5	54.4	57.9	-3.5	62.6	64.0	-1.4
	測定	50.3	52.9	-2.6	74.0	74.8	-0.8			
	変化と関係	69.1	68.3	0.8	75.1	75.9	-0.8	51.6	51.3	0.3
	データの活用				76.7	76.0	0.7	65.4	68.7	-3.3
問題形式	選択式	74.7	75.7	-1.0	76.6	76.0	0.6	50.1	51.8	-1.7
	短答式	74.9	72.8	2.1	74.3	75.8	-1.5	75.3	76.5	-1.2
	記述式	45.4	47.4	-2.0	51.9	53.0	-1.1	59.9	60.2	-0.3

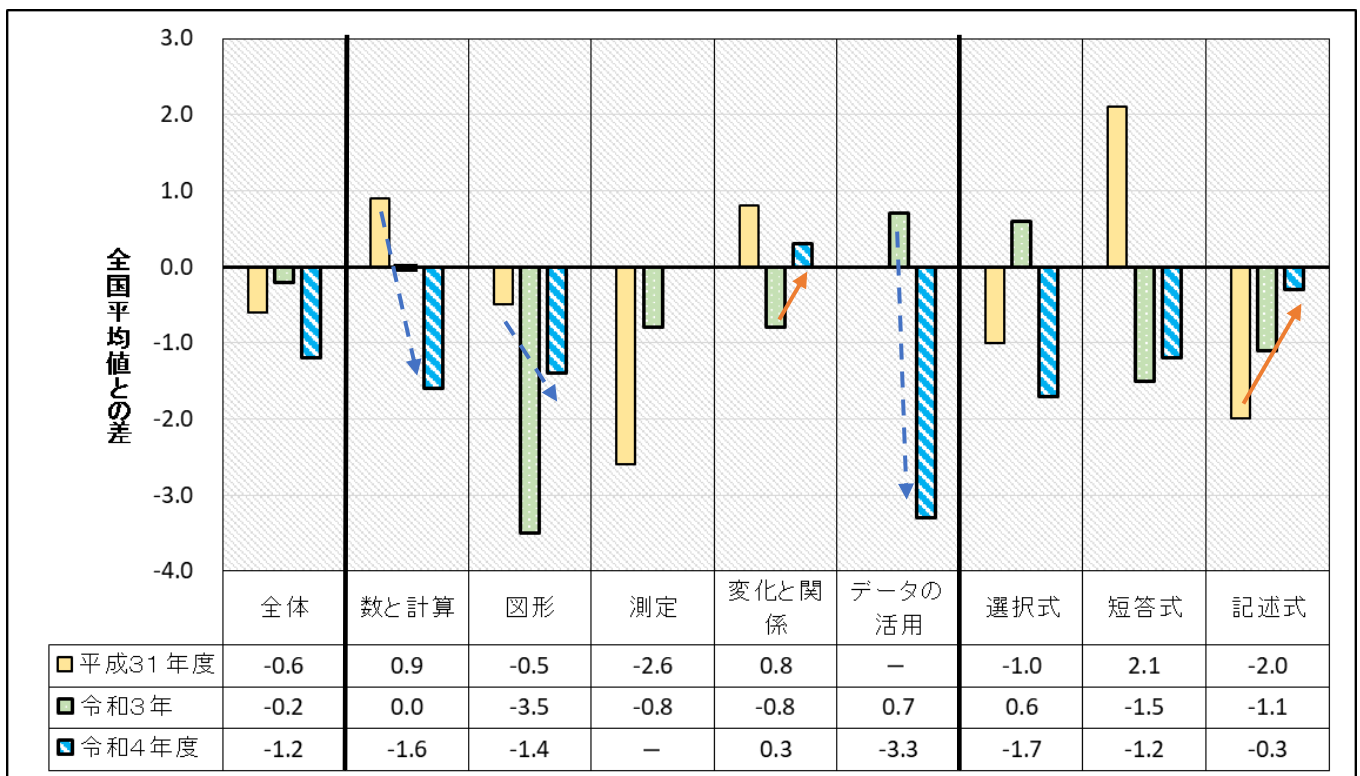


図4 小学校 算数（H3 1～R4 経年変化）

(3) 小学校 理科

※全国平均との比較について

- 全体の結果において、H30年度より改善し、全国平均値との差が縮まっている。
- 『エネルギー』を柱とする領域』『生命』を柱とする領域』において、改善傾向にある。
- 選択式、記述式の問題について、改善傾向にある。
- 『粒子』を柱とする領域』『地球』を柱とする領域』において、全国平均値を下回る結果が続いている。

表7 小学校理科における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）（％）

小学校理科		平成30年度			令和4年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
学習指導要領の領域等	全体	58.0	60.3	-2.3	63.0	63.3	-0.3
	「エネルギー」を柱とする領域	56.8	59.8	-3.0	50.7	51.6	-0.9
	「粒子」を柱とする領域	51.9	53.1	-1.2	58.6	60.4	-1.8
	「生命」を柱とする領域	70.5	73.6	-3.1	74.8	75.0	-0.2
	「地球」を柱とする領域	48.3	49.5	-1.2	62.8	64.6	-1.8
問題形式	選択式	61.5	63.8	-2.3	66.8	66.8	0.0
	短答式	75.7	79.4	-3.7	62.5	66.2	-3.7
	記述式	27.0	28.0	-1.0	47.5	47.3	0.2

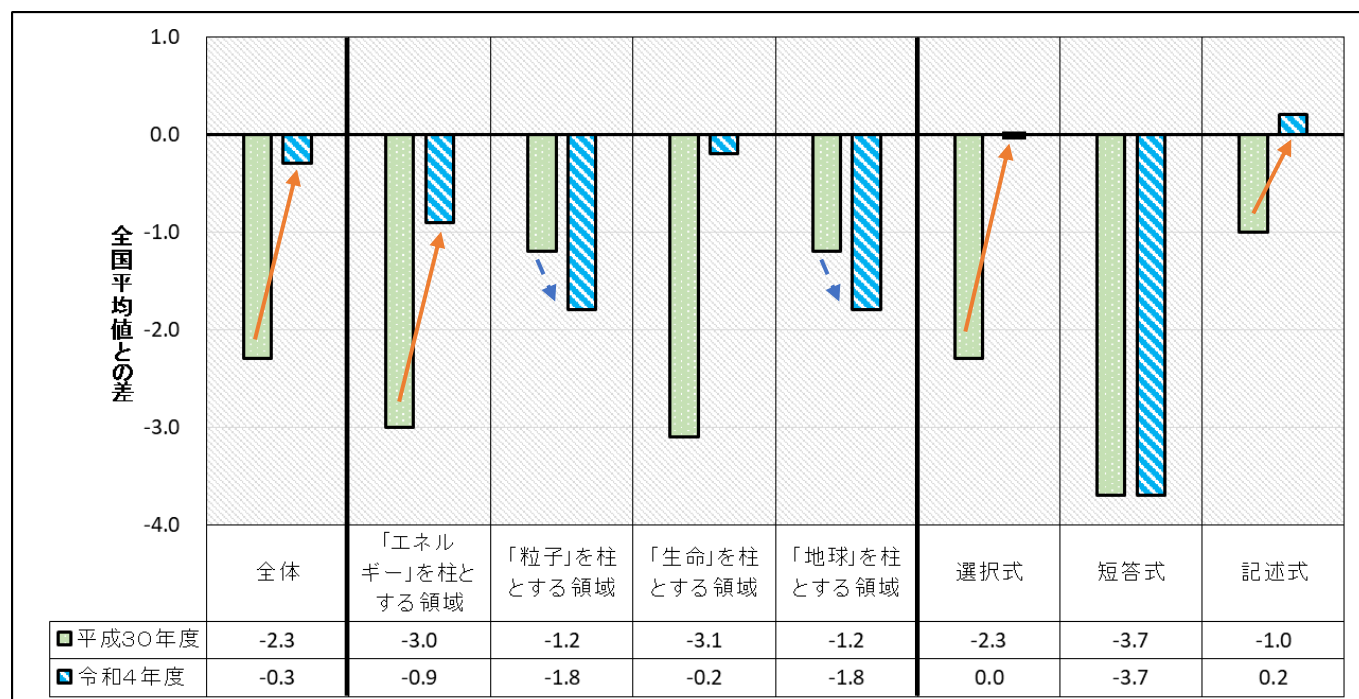


図5 小学校 理科 (H30・R4経年変化)

(4) 中学校 国語

※全国平均との比較について

- 「情報の扱いに関する事項」の領域について、全国平均値を上回った。
- 「我が国の言語文化に関する事項」の領域について、全国平均値を下回るものの、H3 1年度より改善傾向が見られる。
- 「書くこと」の領域について、R3年度より改善し、全国平均値を上回った。
- 記述式の問題について、R3年度より大きく上回った。
- 「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域について、全国平均値を下回る結果が続いている。

表8 中学校国語における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）（％）

中学校国語		平成31年度			令和3年度			令和4年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
全体		69.0	72.8	-3.8	61.0	64.6	-3.6	66.0	69.0	-3.0
学習指導要領の領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	—	—	—	—	—	—	69.1	72.2	-3.1
	情報の扱い方に関する事項	—	—	—	—	—	—	48.6	46.5	2.1
	我が国の言語文化に関する事項	62.3	67.7	-5.4	72.1	75.1	-3.0	68.5	70.2	-1.7
	話すこと・聞くこと	68.2	70.2	-2.0	77.3	79.8	-2.5	60.8	63.9	-3.1
	書くこと	78.8	82.6	-3.8	52.4	57.1	-4.7	48.6	46.5	2.1
	読むこと	69.0	72.2	-3.2	44.3	48.5	-4.2	63.6	67.9	-4.3
問題形式	選択式	70.0	73.6	-3.6	60.4	63.9	-3.5	71.4	73.7	-2.3
	短答式	49.8	56.8	-7.0	72.1	74.4	-2.3	66.8	70.3	-3.5
	記述式	74.5	76.5	-2.0	51.1	56.0	-4.9	55.9	57.4	-1.5

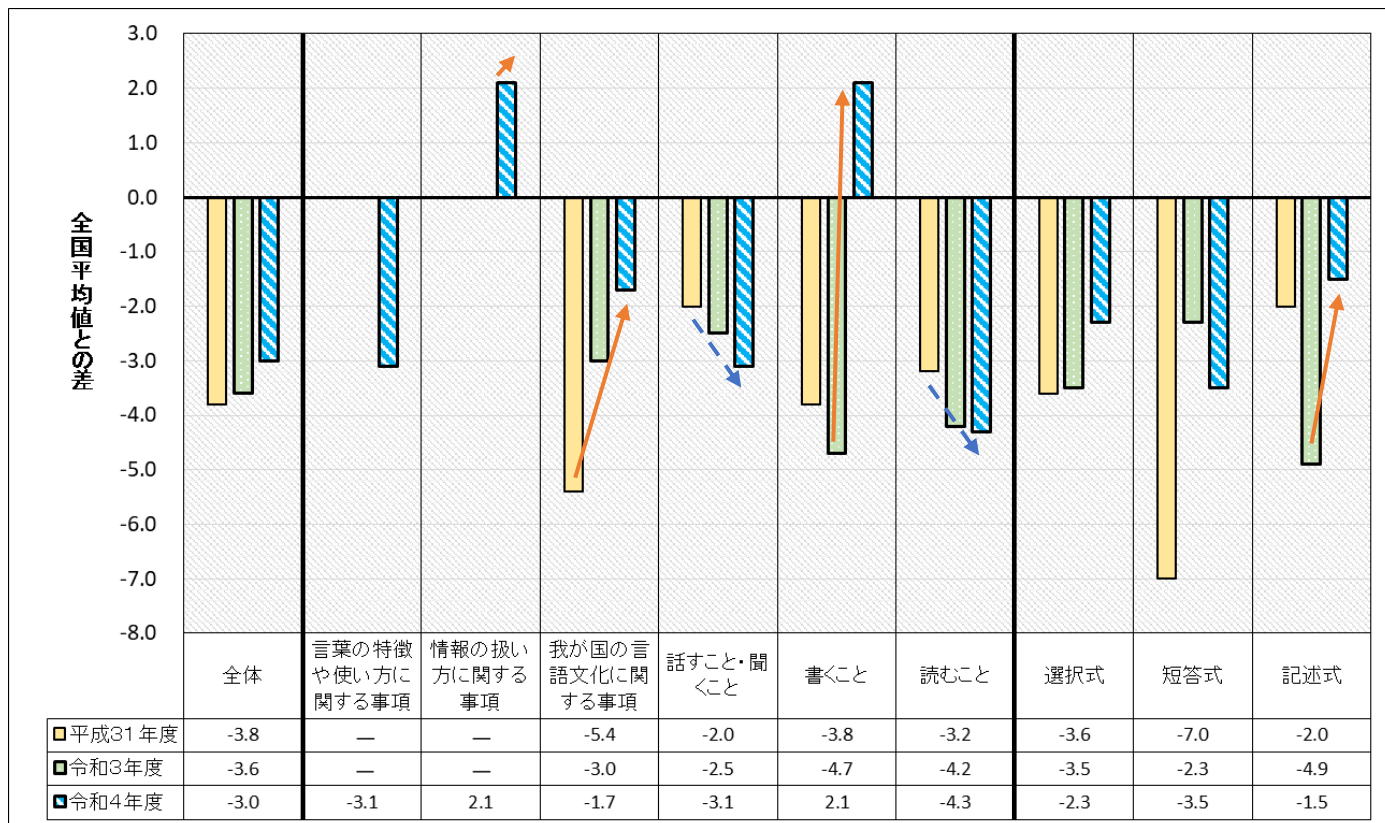


図6 中学校 国語（H3 1～R4 経年変化）

(5) 中学校 数学

※全国平均との比較について

- 「データの活用」の領域について、H3 1年度より上昇傾向にあり、全国平均値を上回っている。
- 「数と式」「図形」の領域について、全国平均値を下回る結果が続いている。
- 「関数」の領域について、H3 1年度より下降傾向にある。
- 記述式の問題について、全国平均値を下回る結果が続いている。

表9 中学校数学における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）（％）

中学校数学		平成31年度			令和3年度			令和4年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
学習 指導要領 の領域等	全体	57.0	59.8	-2.8	56.0	57.2	-1.2	50.0	51.4	-1.4
	数と式	58.6	63.8	-5.2	61.8	64.9	-3.1	54.3	57.4	-3.1
	図形	70.5	72.4	-1.9	48.9	51.4	-2.5	41.1	43.6	-2.5
	関数	41.2	40.8	0.4	55.7	56.4	-0.7	40.9	43.6	-2.7
	データの活用	54.6	56.3	-1.7	54.7	53.8	0.9	58.7	57.1	1.6
問題形式	選択式	57.6	60.3	-2.7	52.0	52.4	-0.4	51.0	52.6	-1.6
	短答式	64.1	66.6	-2.5	69.0	70.5	-1.5	64.3	65.7	-1.4
	記述式	45.1	47.1	-2.0	33.0	35.0	-2.0	33.5	36.2	-2.7

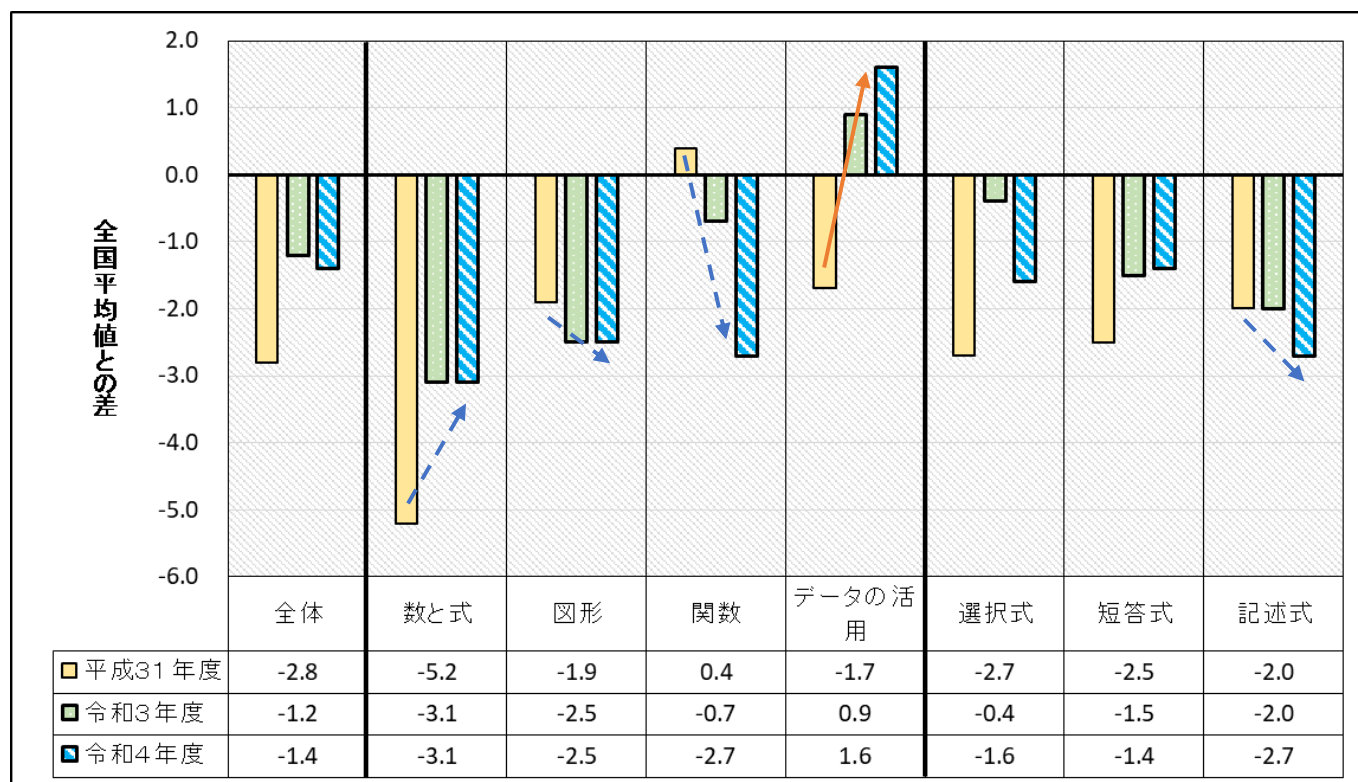


図7 中学校 数学 (H3 1～R4 経年変化)

(6) 中学校 理科

※全国平均との比較について

- 短答式の問題について、改善傾向にある。
- 全ての領域について、全国平均値を下回った。特に、「『生命』を柱とする領域」は、全国平均値との差が大きく開いている。
- 記述式の問題について、全国平均値との差が大きく開いている。

表10 中学校理科における鈴鹿市と全国の平均正答率の差（領域・問題形式別）（%）

中学校理科		平成30年度			令和4年度		
		鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
学習 指導要 領の 領域等	全体	65.0	66.1	-1.1	46.0	49.3	-3.3
	「エネルギー」を柱とする領域	72.5	74.4	-1.9	38.9	41.9	-3.0
	「粒子」を柱とする領域	63.7	65.0	-1.3	47.4	50.9	-3.5
	「生命」を柱とする領域	70.6	72.5	-1.9	53.2	57.9	-4.7
	「地球」を柱とする領域	56.8	57.8	-1.0	41.7	44.3	-2.6
問題形式	選択式	70.0	70.9	-0.9	46.4	49.6	-3.2
	短答式	68.3	70.2	-1.9	24.2	24.8	-0.6
	記述式	47.1	50.1	-3.0	48.4	53.5	-5.1

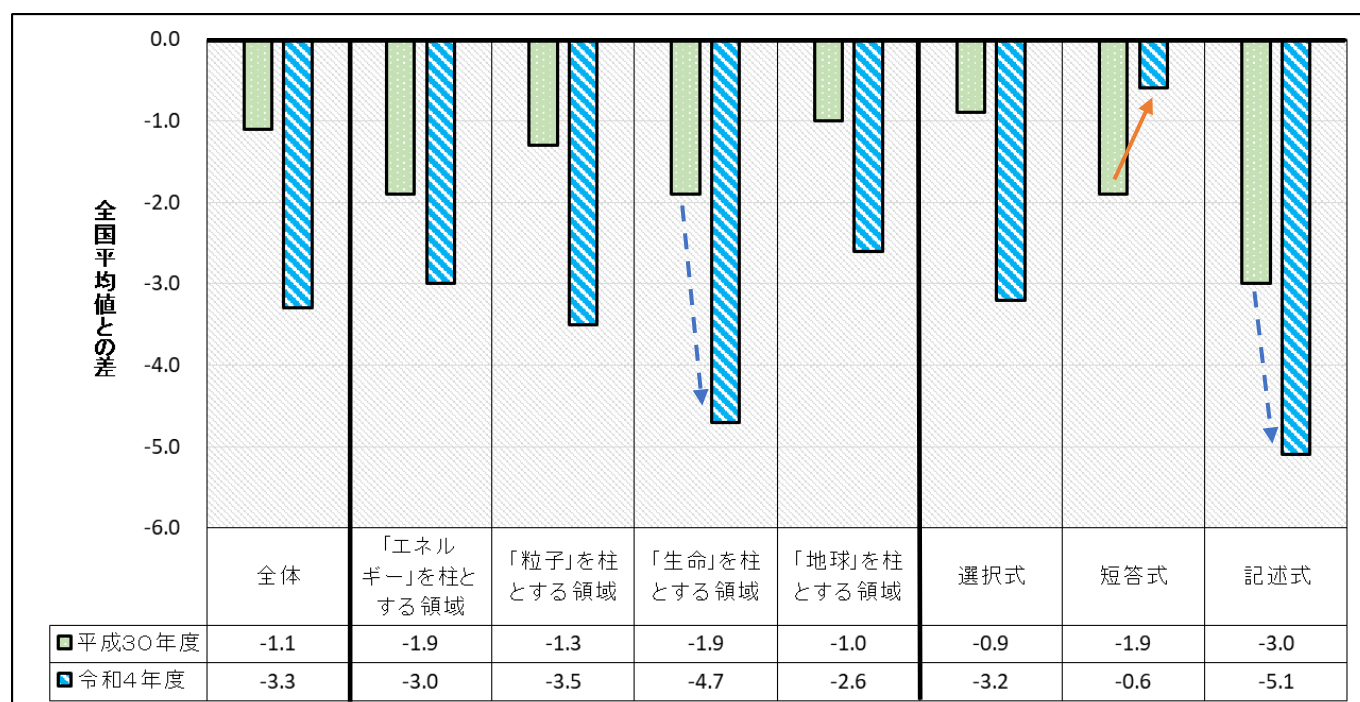


図8 中学校 理科 (H30・R4経年変化)

6 各教科に関する【児童生徒質問紙調査】【学校質問紙調査】の結果

本稿の見方

- * 質問文は、R4年度調査を掲載。H31年度、R3年度とわずかに異なる文言の質問については、同質問と捉え、データを記載。
- * 肯定的回答とは、選択肢のうち「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」（または、それに類する選択肢）と回答したそれぞれの割合の合計を指す。
- * 課題とみなした質問項目について、各表のR4年度の鈴鹿市の結果を□で囲む。
※肯定的回答の割合が70%未満か、70%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。
※質問によっては、実態を把握するにとどめ、課題として取り上げなかった項目もある。
- * 児童・生徒質問紙と学校質問紙の両方の結果を合わせ見て、校種・教科別に課題を記載。

(1) 小学校国語に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が70%未満か、70%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回る(●)ものについて課題が大きいとみなす。
※児童質問紙において、肯定的回答の割合が全国平均より上回る(◎)か、全国平均以下であっても昨年度の本市の結果より5ポイント以上上回る(○)ものについて成果とみなす。

<児童質問紙調査>

- 解答を文章で書く問題で、最後まで解答を書こうと努力した児童の割合
- 国語の勉強が好きと回答している児童の割合
- 解答時間が十分だったと回答している児童の割合

<学校質問紙調査>

特に成果・課題となる質問項目はない

<児童質問紙調査及び学校質問紙調査>

- 児童質問紙 No. 49 から No. 51 と学校質問紙 No. 39 から No. 42 を比較すると、教師は授業改善が進んでいると捉えているのに対し、児童はそのように感じている割合が低いこと

児童質問紙

表 1 1 児童の「国語の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

R4 質問 番号	質 問	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R4 全国 (公立)	R4 全国 平均 との差
49	国語の勉強は好きですか	59.1	50.2	54.2	59.2	-5.0
50	国語の勉強は大切だと思いますか	92.0	93.3	92.9	93.3	-0.4

51	国語の授業の内容はよく分かりますか	84.4	81.1	80.4	84.0	-3.6
52	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	90.6	91.2	90.5	91.8	-1.3

表 1 2 児童の「調査問題（国語）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R4 質問 番号	質 問	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R4 全国 (公立)	R4 全国 平均 との差
国 1	解答を文章で書く問題がありましたが、それらの問題についてどのように解答しましたか（※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答）	80.3	80.6	94.2	95.4	-1.2
国 2	解答時間は十分でしたか	70.1	66.3	58.5	66.0	-7.5

学校質問紙

表 1 3 「国語科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R4 質問 番号	質 問	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R4 全国 (公立)	R4 全国 平均 との差
39	前年度までに、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行いましたか	—	93.3	96.7	94.4	+2.3
40	前年度までに、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行いましたか。	—	90.0	96.7	95.4	+1.3
41	前年度までに、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行いましたか	—	93.3	90.0	92.7	-2.7
42	前年度までに、目的に応じて文章を読み、感想や考えを持ったり自分の考えを広げたりする授業を行いましたか	—	90.0	100.0	95.6	+4.4

(2) 小学校算数に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が70%未満か、70%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回る(●)ものについて課題が大きいとみなす。
 ※児童質問紙において、肯定的回答の割合が全国平均より上回る(◎)か、全国平均以下であっても昨年度の本市の結果より5ポイント以上上回る(○)ものについて成果とみなす。

<児童質問紙調査>

- ◎ 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答している児童の割合
- 算数の勉強が好きと回答している児童の割合
- 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えること

<学校質問紙調査>

特に成果・課題となる質問項目はない

<児童質問紙調査及び学校質問紙調査>

- 児童質問紙 No. 57 と学校質問紙 No. 46 を比較すると、教師は、実生活における事象との関連を図った授業を行っているかと捉えているのに対し、児童は、算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている割合が低いこと

児童質問紙

表 1 4 児童の「算数の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

R4 質問 番号	質 問	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R4 全国 (公立)	R4 全国 平均 との差
53	算数の勉強は好きですか	71.0	68.7	61.7	62.5	-0.8
54	算数の勉強は大切だと思いますか	93.8	94.7	93.9	94.2	-0.3
55	算数の授業の内容はよく分かりますか	84.3	85.1	80.4	81.2	-0.8
56	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.9	93.1	93.4	93.3	+0.1
57	算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	76.8	75.8	68.3	69.3	-1.0
58	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	79.8	83.4	79.0	80.4	-1.4
59	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	(H30) 78.3	—	74.2	76.8	-2.6
60	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	—	88.0	85.5	85.7	-0.2

表 1 5 児童の「調査問題（算数）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

R4 質問 番号	質 問	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R4 全国 (公立)	R4 全国 平均 との差
算 1	言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか(※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答)	81.1	79.8	82.0	82.8	-0.8
算 2	解答時間は十分でしたか	66.0	79.8	81.1	83.4	-2.3

学校質問紙

表 1 6 「算数科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R4 質問 番号	質 問	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R4 全国 (公立)	R4 全国 平均 との差
46	前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	76.6	83.3	96.7	84.3	+12.4
47	前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形についての実感を伴った理解をする活動を行いましたか	—	93.3	93.4	92.4	+1.0
48	前年度までに、公式やきまり、計算の仕方などを指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫していましたか	—	93.3	100	97.1	+2.9

(参考資料)

表 1 7 「算数科の指導方法」に関する質問におけるその他の回答の割合（％）

R4 質問 番号	質 問	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R4 全国 (公立)	R4 全国 平均 との差
43	前年度に、算数の授業における少人数による指導を行いましたか。(※「年間の授業のうち、およそ3/4以上で行った」と解答)【新規】	—	—	16.7	22.2	-5.7
44	前年度に、算数の授業における習熟度に応じた指導を行いましたか。(※「年間の授業のうち、およそ3/4以上で行った」と解答)【新規】	—	—	13.3	15.9	-2.6
45	前年度に、算数の授業におけるティームティーチングによる指導を行いましたか。(※「年間の授業のうち、およそ3/4以上で行った」と解答)【新規】	—	—	43.3	35.8	+7.5
49	前年度に、教科担任制を実施していましたか	(H30) 0.0	—	6.7	15.4	-8.7

※ 人的配置が必要であり、学校のみが取り組むべき課題とは言えないため、参考資料とする。

(3) 小学校理科に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が70%未満か、70%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回る(●)ものについて課題が大きいとみなす。
 ※児童質問紙において、肯定的回答の割合が全国平均より上回る(◎)か、全国平均以下であっても昨年度の本市の結果より5ポイント以上上回る(○)ものについて成果とみなす。

<児童質問紙調査>

- 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えること
- 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えること
- 理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えること

<学校質問紙調査>

- 自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行うこと
- 自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行うこと
- 観察や実験の結果を整理し考察する指導を行うこと

<児童質問紙調査及び学校質問紙調査>

- 児童質問紙 No. 64 と学校質問紙 No. 51 を比較すると、教師は、実生活における事象との関連を図った授業を行っているかと捉えているのに対し、児童は、理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている割合が低いこと

児童質問紙

表 18 児童の「理科の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合(%)

R4 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R4 全国 (公立)	R4 全国 平均 との差
61	理科の勉強は好きですか	74.1	75.3	79.7	-2.4
62	理科の勉強は大切だと思いますか	82.0	84.8	86.5	-1.7
63	理科の授業の内容はよく分かりますか	83.5	84.6	88.5	-0.9
64	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	59.4	65.4	67.9	-2.5
65	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	70.6	74.8	77.2	-2.4
67	理科の授業では、自分の予想をもとに、観察や実験の計画を立てていますか	70.8	75.0	78.0	-3.0
68	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか	78.2	84.3	84.9	-0.6
69	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	63.9	69.3	72.2	-2.9

表 19 児童の「調査問題（理科）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R4 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R4 全国 (公立)	R4 全国 平均 との差
理 1	解答を文章などで書く問題がありましたが、どのように解答しましたか（※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答）	75.1	79.1	80.6	-1.5
理 2	解答時間は十分でしたか	86.7	88.0	90.8	-2.8

（参考資料）

表 20 児童の「理科の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問におけるその他の回答の割合（％）

R4 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R4 全国 (公立)	R4 全国 平均 との差
66	将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思えますか。	23.1	25.8	26.6	-0.8

※ 理科や科学技術に関する興味・関心は大切であるものの、職業の選択に関する質問であるため、参考資料とする

学校質問紙

表 21 「理科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R4 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R4 全国 (公立)	R4 全国 平均 との差
50	前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか【新規】	—	86.7	93.9	-7.2
51	前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	83.3	93.3	94.2	-0.9
52	前年度までに、自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか	80.0	86.6	93.8	-7.2
53	前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行いましたか	93.4	90.0	97.1	-7.1
54	前年度までに、児童が観察や実験をする授業を1クラスあたりどの程度行いましたか（※「週1回以上」「月1回以上」と回答）	96.7	93.3	96.0	-2.7

（参考資料）

表 22 「理科の指導方法」に関する質問におけるその他の回答の割合（％）

R4 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R4 全国 (公立)	R4 全国 平均 との差
55	前年度に、教科担任制を実施していましたか【新規】	—	26.7	53.6	-26.9

※ 人的配置が必要であり、学校のみが取り組むべき課題とは言えないため、参考資料とする。

(4) 中学校国語に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が70%未満か、70%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回る(●)ものについて課題が大きいとみなす。
 ※児童質問紙において、肯定的回答の割合が全国平均より上回る(◎)か、全国平均以下であっても昨年度の本市の結果より5ポイント以上上回る(○)ものについて成果とみなす。

<生徒質問紙調査>

- ◎ 国語の勉強は大切だと回答している生徒の割合
- ◎ 国語の授業の内容はよく分かると回答している生徒の割合
- ◎ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答している生徒の割合
- ◎ 解答を文章で書く問題で、最後まで解答を書こうと努力した生徒の割合
- 解答時間が十分だったと回答している生徒の割合
- 国語の勉強が好きと回答している生徒の割合

<学校質問紙調査>

特に成果・課題となる質問項目はない

<児童質問紙調査及び学校質問紙調査>

- 児童質問紙 No. 49 から No. 52 と学校質問紙 No. 39 から No. 42 を比較すると、教師は授業改善が進んでいると捉えているのに対し、児童はそのように感じている割合が低いこと

生徒質問紙

表 2 3 生徒の「国語の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

R4 質問 番号	質 問	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R4 全国 (公立)	R4 全国 平均 との差
49	国語の勉強は好きですか	64.4	62.2	<u>62.3</u>	61.9	+0.4
50	国語の勉強は大切だと思いますか	92.3	92.7	<u>94.2</u>	93.2	+1.0
51	国語の授業の内容はよく分かりますか	81.0	83.2	<u>83.9</u>	81.2	+2.7
52	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89.6	91.8	<u>91.2</u>	89.7	+1.5

表 2 4 生徒の「調査問題（国語）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

R4 質問 番号	質 問	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R4 全国 (公立)	R4 全国 平均 との差
国1	解答を文章で書く問題がありましたが、それらの問題についてどのように解答しましたか(※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答)	—	74.5	<u>79.1</u>	77.3	+1.8
国2	解答時間は十分でしたか	87.8	73.5	<u>81.8</u>	84.9	-3.1

学校質問紙

表 2 5 「国語科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R4 質問 番号	質 問	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R4 全国 (公立)	R4 全国 平均 との差
39	前年度までに、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行いましたか	—	100.0	100.0	97.5	+2.5
40	前年度までに、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行いましたか	—	90.0	100.0	93.4	+6.6
41	前年度までに、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行いましたか	—	90.0	100.0	96.1	+3.9
42	前年度までに、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行いましたか	—	100.0	90.0	95.8	-5.8

(5) 中学校数学に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が 70%未満か、70%以上であっても全国平均より 5 ポイント以上下回る (●) ものについて課題が大きいとみなす。
 ※児童質問紙において、肯定的回答の割合が全国平均より上回る (◎) か、全国平均以下であっても昨年度の本市の結果より 5 ポイント以上上回る (○) ものについて成果とみなす。

<生徒質問紙調査>

- ◎ 数学の授業の内容はよく分かったと回答している生徒の割合
- ◎ 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答している生徒の割合
- ◎ 数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている生徒の割合
- 数学の勉強が好きと回答している生徒の割合
- 数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えること
- 言葉や数、式を使って説明する問題で、最後まで解答を書こうと努力すること
- 解答時間が十分だったと回答している生徒の割合

<学校質問紙調査>

- 観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動を行うこと（小学校の学校質問紙 No. 47 [93.4%] と比較すると、中学校では大きく下がっている）

<児童質問紙調査及び学校質問紙調査>

- 児童質問紙 No. 57 と学校質問紙 No. 46 を比較すると、教師は、実生活における事象との関連を図った授業を行っているかと捉えているのに対し、生徒は、数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている割合が低いこと

生徒質問紙

表 26 生徒の「数学の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

R4 質問 番号	質 問	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R4 全国 (公立)	R4 全国 平均 との差
53	数学の勉強は好きですか	54.9	60.3	57.6	58.1	-0.5
54	数学の勉強は大切だと思いますか	83.8	84.3	86.1	86.6	-0.5
55	数学の授業の内容はよく分かりますか	72.5	74.2	79.3	76.2	+3.1
56	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	76.4	76.3	77.5	76.5	+1.0
57	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	—	51.0	44.5	47.3	-2.8
58	数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	—	78.6	75.0	75.2	-0.2
59	数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	—	84.3	70.0	70.2	-0.2
60	数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	—	86.5	80.2	79.6	+0.6

表 2 7 生徒の「調査問題（数学）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R4 質問 番号	質 問	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R4 全国 (公立)	R4 全国 平均 との差
数 1	言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、どのように解答しましたか（※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答）	59.4	59.6	54.8	53.4	+1.4
数 2	解答時間は十分でしたか	84.9	81.5	67.3	71.0	-3.7

学校質問紙

表 2 8 「数学科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R4 質問 番号	質 問	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R4 全国 (公立)	R4 全国 平均 との差
46	前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	70.0	80.0	80.0	82.8	-2.8
47	前年度までに、観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動を行いましたか	—	50.0	50.0	78.7	-28.7
48	前年度までに、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫していましたか	—	100.0	100.0	97.0	-3.0

（参考資料）

表 2 9 「数学科の指導方法」に関する質問におけるその他の回答の割合（％）

R4 質問 番号	質 問	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R4 全国 (公立)	R4 全国 平均 との差
43	前年度に、数学の授業における少人数による指導を行いましたか（※「年間の授業のうち、おおよそ3/4以上で行った」と回答）【新規】	—	—	20.0	21.8	-1.8
44	前年度に、数学の授業における習熟度に応じた指導を行いましたか（※「年間の授業のうち、おおよそ3/4以上で行った」と回答）【新規】	—	—	20.0	16.2	+3.8
45	前年度に、数学の授業におけるティーム・ティーチングによる指導を行いましたか（※「年間の授業のうち、おおよそ1/4以上で行った」と回答）【新規】	—	—	40.0	54.3	-14.3

※ 人的配置が必要であり、学校のみが取り組むべき課題とは言えないため、参考資料とする。

(6) 中学校理科に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が70%未満か、70%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回る(●)ものについて課題が大きいとみなす。
 ※児童質問紙において、肯定的回答の割合が全国平均より上回る(◎)か、全国平均以下であっても昨年度の本市の結果より5ポイント以上上回る(○)ものについて成果とみなす。

<生徒質問紙調査>

- 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察すること
- 解答を文章で書く問題で、最後まで解答を書こうと努力した生徒の割合
- 理科の勉強が好きと回答している生徒の割合
- 理科の勉強は大切と回答している生徒の割合
- 理科の授業の内容はよく分かると回答している生徒の割合
- 理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えること
- 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答している生徒の割合
- 理科の授業では、自分の予想をもとに、観察や実験の計画を立てること
- 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えること

<学校質問紙調査>

- 自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行うこと
- 観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行うこと
- 生徒が観察や実験をする授業を行うこと

<児童質問紙調査及び学校質問紙調査>

- 児童質問紙 No. 64 と学校質問紙 No. 50 を比較すると、教師は、実生活における事象との関連を
 図った授業を行っているかと捉えているのに対し、生徒は、理科の授業で学習したことを普段の生活
 の中で活用できないか考えている割合が低いこと

生徒質問紙

表30 生徒の「理科の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合(%)

R4 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R4 全国 (公立)	R4 全国 平均 との差
61	理科の勉強は好きですか	63.9	54.9	66.4	-11.5
62	理科の勉強は大切だと思いますか	67.2	69.9	76.8	-6.9
63	理科の授業の内容はよく分かりますか	72.0	67.4	75.2	-7.8
64	理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用 できないか考えますか	41.5	46.6	52.7	-6.1
65	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに 役に立つと思いますか	52.7	56.3	61.5	-5.2
67	理科の授業では、自分の予想をもとに、観察や実験の計 画を立てていますか	55.0	63.8	64.5	-0.7
68	理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察してい ますか	69.7	77.0	78.9	-1.9
69	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っ ていないかを振り返って考えていますか	53.1	66.0	68.1	-2.1

表 3 1 生徒の「調査問題（理科）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R4 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R4 全国 (公立)	R4 全国 平均 との差
理 1	解答を文章などで書く問題がありましたが、どのように解答しましたか（※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答）	60.7	70.2	74.0	-3.8
理 2	解答時間は十分でしたか	92.1	91.8	93.2	-1.4

（参考資料）

表 3 2 生徒の「理科の学習に対する関心・意欲・態度等」に関する質問におけるその他の回答の割合（％）

R4 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R4 全国 (公立)	R4 全国 平均 との差
66	将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思えますか。	22.2	20.1	22.1	-2.0

※ 理科や科学技術に関する興味・関心は大切であるものの、職業の選択に関する質問であるため、参考資料とする

学校質問紙

表 3 3 「理科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R4 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	R4 鈴鹿市	R4 全国 (公立)	R4 全国 平均 との差
49	前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか【新規】	—	100	94.4	+5.6
50	前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	90.0	100	96.8	-3.2
51	前年度までに、自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか	40.0	70.0	79.2	-9.2
52	前年度までに、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行いましたか	100	80.0	94.6	-14.6
53	前年度までに、生徒が観察や実験をする授業を1クラスあたりどの程度行いましたか（※「週1回以上」「月1回以上」と回答）	100	80.0	91.2	-11.2